

第三回 国宝薬師寺東塔

保存修理現場見学会

平成二十五年十一月

主催 奈良県教育委員会

協力 薬師寺

薬師寺東塔の概要

東塔は薬師寺境内において、唯一、平城京に薬師寺が移った奈良時代より現在まで伝わる建物です。

三重塔の各重に裳階と呼ばれる差し掛けの屋根が取り付く他に例のない形式で、建物の中心には基壇上の礎石から頂部の相輪まで心柱が独立して立っています。

各重の深い軒は尾垂木と呼ぶ斜めの材、方形の斗、横長の肘木を積み重ねた三手先の組物で支えています。そこには、時代をあらわす技法や意匠を見ることが出来ます。

斗はその多くが、外側に木口をみせるように組み合わされ、その上下の材と繊維方向が直行します。木口斗と呼ぶ奈良時代の建築にみられる特徴的な技法です。

肘木には、その曲線部に舌という出っ張りを造りだしています。飛鳥時代の法隆寺金堂・五重塔、法起寺三重塔と、薬師寺東塔以外ではみられません。さらに中国（後漢）や韓半島（高句麗）に目を転じると、壁画などに描かれる建築に同様の意匠をみることが出来ます。古代における国を越えた交流を伝える貴重な証拠です。

明治補強材の解体（時にはクレーンの力も借ります）



裳階壁土解体後（上の心柱を解体し、裳階の解体開始）



瓦下ろし終了後（いよいよ木部の解体です）



裳階屋根・組物解体後（軸部と建具を残すのみです）



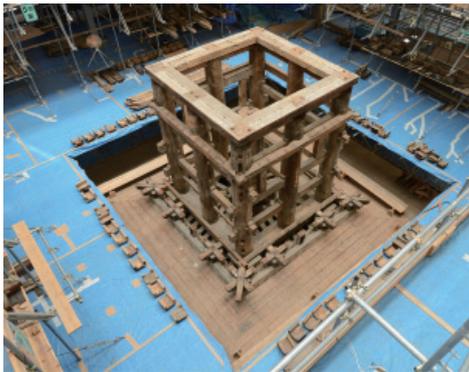
飛檐垂木解体後（三重は幾度も修理を受けています）



裳階柱解体後（この縁の上に裳階が建っていました）



明治補強材の解体（時にはクレーンの力も借ります）



裳階腰組解体中（緑も組物で支えています）



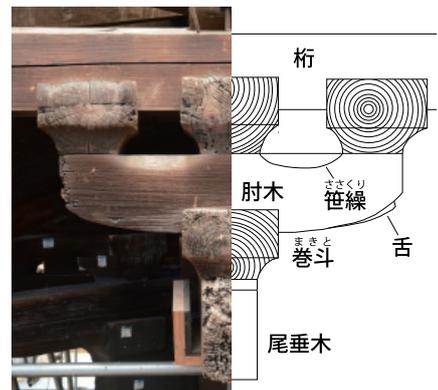
隅木解体後（組物が軒を支える様子がよくわかります）



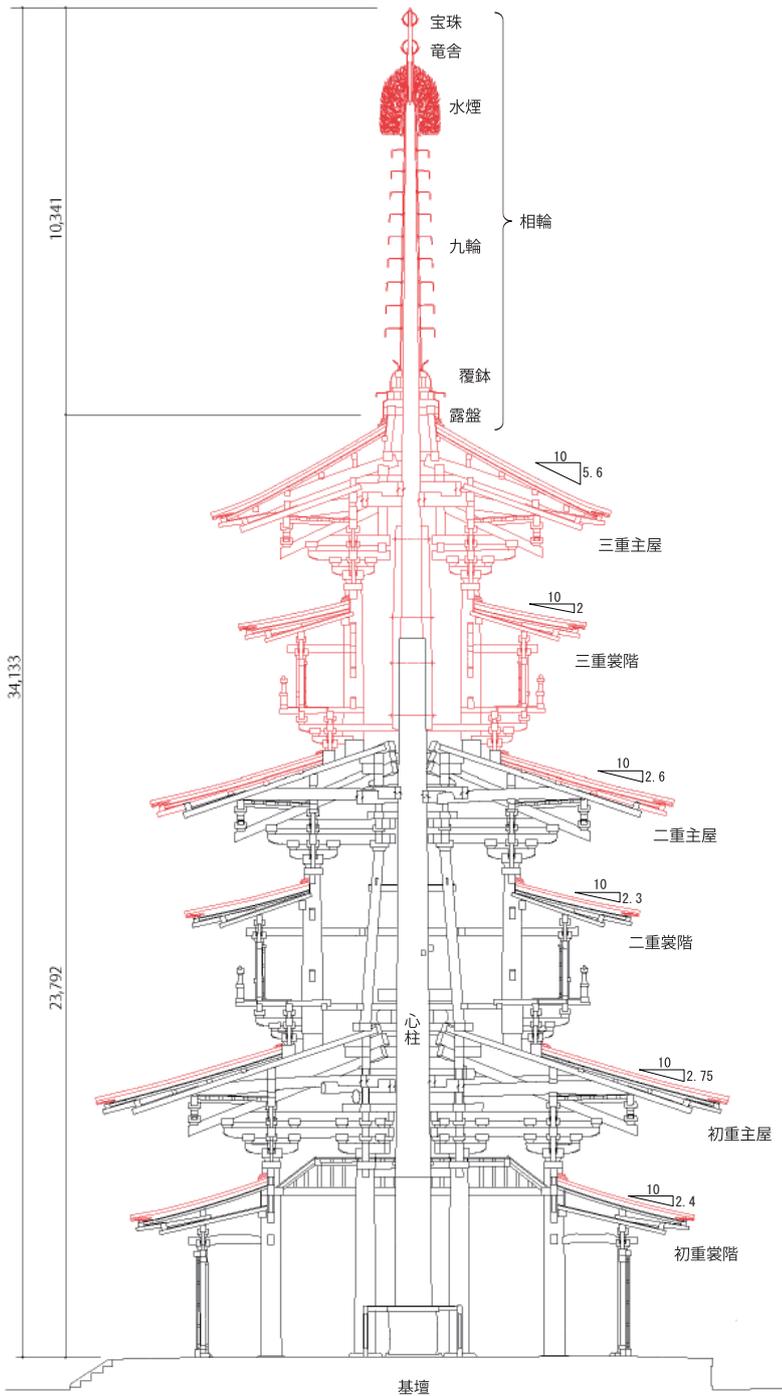
三重側柱解体後（柱盤には柱の痕跡が残っています）



組物解体中（隅の斗は肘木から造り出しています）



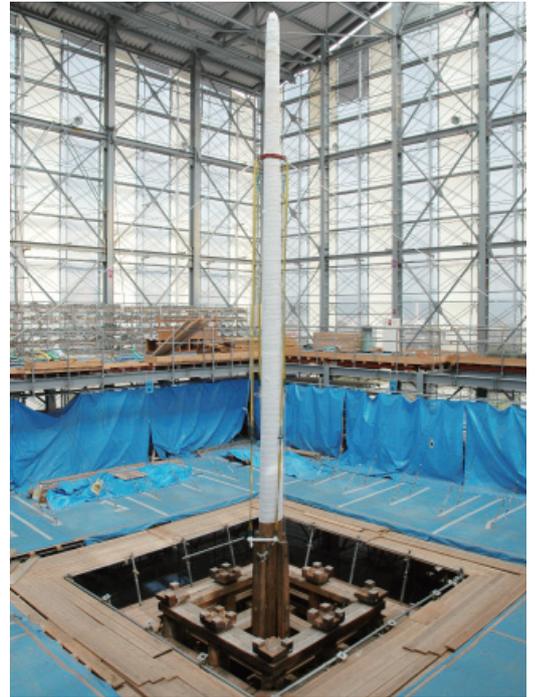
組物の細部
(巻斗は木口をみせます)



東塔解体の進捗状況
(赤い部分は解体済)



修理前の東塔（各重に裳階が付く他に例をみない形式です）



一段目肘木解体後（心柱の継手は添木で支えています）

東塔木部の解体

木部の解体は三重の野地板から始めました。主屋小屋組、軒廻りと概ね組み立てと逆の順序で解体していきます。

長い風雨に耐え抜いてきた東塔ですが、これまで何度も修理がおこなわれていました。史料には康安元年（二三六一）の地震で被害を受けたことや江戸時代末までの大風や大火について記録されています。しかしその実態は未解明の部分が多く、今回の修理における課題です。

三重の屋根には、明治修理に際して、非常に狭い小屋組に大きく湾曲した松材を入れていました。軒の垂下を防ごうとした苦勞が偲ばれます。

三重の屋根を解体して、その姿があらわになった心柱は上下二丁の材を繋いだものです。明治の解体修理に際して取り付けられた添木で支えられていました。

三重の柱は二重目の垂木の上に組んだ柱盤はしらばんという分厚い材の上に立っています。柱盤には重い荷重を受けた柱が立っていた痕跡がくつきりと残っていました。

現在は二重を解体しています。来年度にはすべての部材の解体を終え、組み立ての準備を進めます。



素屋根建設中（平成 24 年 2 月）



水煙の解体（平成 24 年 6 月）



瓦下ろし着手（平成 24 年 9 月）



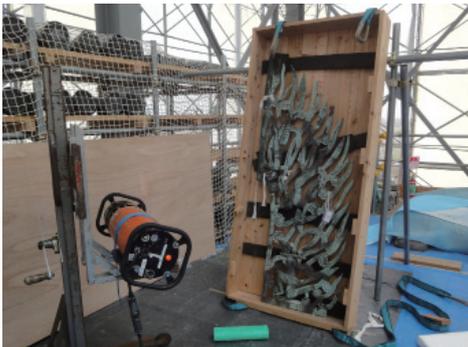
解体中の実測調査



初重天井板の剥落止め作業



解体した部材の調査



相輪の X 線透過撮影



塗装の科学的分析調査



部材の年代学的調査

これまでの保存修理工事の経過

今回の保存修理工事は、薬師寺からの委託を受け、奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所がおこなっています。工事は「解体修理」で、建物を一旦すべて解体し、破損部材の取り替えまたは繕いをおこない、長い年月を耐えて弱くなった箇所には補強を加え、組み立て直します。

今回の事業は平成 21 年 7 月に着手し、平成 30 年 12 月に竣工の予定です。総事業費は約 27 億円となる見込です。

現在東塔を覆う素屋根は、平成 24 年 3 月に竣工しました。解体修理工事が終わる平成 30 年まで、東塔を風雪から守る覆屋として、また修理工

事のための足場として使用します。

平成 24 年 6 月から、水煙など相輪^{すいせん}の解体を皮切りに、いよいよ東塔の解体修理が始まりました。同年 9 月からは屋根瓦を下ろし、平成 25 年 3 月、すべての瓦を下ろし終え、木部の解体に着手しました。

同年 7 月には心柱の上部を解体、11 月現在、二重部分の解体を進めているところです。解体作業と並行して、実測調査・写真撮影をおこない、記録を残します。また初重天井板に残る彩色の剥落止め作業や、さまざまな科学的調査もおこなっています。